

輝くひとみ

ふるさと中仙で
学びを拓き 未来を拓き 夢ふくらむ中仙小学校
～夢に向かって 笑顔いっぱい みんなでチャレンジ～

さつまいもを収穫 いっぱい穫れて 笑顔もいっぱい

■地域に笑顔も届けよう

さつまいもが
いっぱい穫れま
した。子どもた
ちは、水やりや
草取りをして汗
を流して育てた
だけあって、収
穫の喜びも大きかったようです。



収穫したさつまいもは、家に持ち帰る分と
地域に贈る分に分けました。贈る分のプレゼ
ントは、給食センター、保育園・幼稚園、高
齢者福祉施設、日ごろお世話くださって方
にお届けします。そして、感謝の気持ちを込め
て、子どもたちが笑顔も一緒に届けられたら
いいなと思います。

■ユニークな形にぴったりのネーミング

今年のさつまいもは大物が多く、低学年は
1個ずつ抱えるようにして運びました。なお、
最重量は3年生が収穫した1,880kgでした。

また、ユニークな形のさつまいもにぴった
りの名前を子どもたちがつけました。見てい
て楽しくなります。

さて、子どもたち
がつけたネーミン
グが分かるでしょ
うか？(ネーミングは
右下に掲載しました)

① 1年



② 2年



③ 3年



④ 4年



⑤ 5年



⑥ 6年



11月



主な予定

日	曜	おもな行事予定
1	日	あきた教育の日
2	月	
3	火	文化の日
4	水	
5	木	国際教養大留学生と交流(5年)
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	校内研究会(算数)
11	水	
12	木	水墨画体験(6年) 校外学習(5年)
13	金	
14	土	
15	日	
16	月	和歌山県の先生が来校(~19日)
17	火	チューリップ球根植え期間
18	水	
19	木	どんぱん活動(話し合い)
20	金	校外学習(2年①)
21	土	
22	日	
23	月	勤労感謝の日
24	火	
25	水	校外学習(2年②)
26	木	全校集会 どんぱん活動(ふれあい)
27	金	一日教育実習
28	土	
29	日	
30	月	

(予定は変更になることがあります)

【さつまいもの名まえ】①ひらがなの「し」 ②アシカ
③雪だるま ④まほうの杖 ⑤波平 ⑥ツチノコの親子

アルピニスト・野口 健さんが講演

「人と人のつながり」「自分の目で見ること」を大切に

中仙地区小・中学生の「著名人に生き方を学ぶ集会」

中仙地区の小学5年から中学3年までの児童生徒を対象にした「著名人に生き方を学ぶ集会」をアルピニストの野口健さんを講師にお招きして、10月26日にドンパルで開きました。この集会は今年で5年目となり、大仙市と中仙地区連合PTAの主催によるものです。

野口さんは、エベレストなど世界7大陸の最高峰を世界最年少記録で登頂するとともに、富士山清掃登山をはじめ環境問題に精力的に取り組む活動家です。演題は「富士山から日本を変える」。今号では講演の内容（要旨）を紹介します。

1 自分を変えた本

野口さんは父親が外交官だったため生まれながらの海外生活。4歳で帰国した日本の小学校でいじめに遭った。イギリスに渡った高校時代は荒れた生活で「落ちこぼれ」だった。そんな自分を変えたいと思っていたとき、冒険家の植村直己さんの本を読んで目が覚めた。

植村さんの偉大な記録は「登り続けた結果で達成された」ものと知り、「コツコツ続けることが大事だ」と気づかされた。そして15歳で登山を始めた。

2 エベレストでの悔しい一言

エベレスト登頂には2か月かかり、ベースキャンプを設営する。ベースキャンプの食料は氷河にそのまま残され、ゴミになっている。エベレスト登山は1920年ころから始まり、日本の登山隊は世界的にも多く、そのゴミは増え続けている。

外国の登山隊に「日本人はエベレストを散々汚すのか。なぜエベレストを守ろうとしないのか」と厳しく責められ、日本人として悔しかった。

3 白神山地が一番好き

私が日本で一番好きな山は白神山地だ。歩くと地面がふかふかと柔らかい。ブナの森が豊かで、その葉っぱが積もっているからだ。森の恵みにたくさん生き物がいっぱい。森に命がみなぎっている白神山地は、だから一番好きだ。



4 富士山清掃登山のきっかけ

夏の富士山に登って驚いたことがある。富士山には登山シーズンに37万人も登る。山頂に自動販売機があるほどだ。ふと山肌を見ると白い物が川のようになっていた。トイレトペーパーだ。排泄物は火山性土壌にしみ込むが、紙がそのまま残っていたのだ。

青木ヶ原樹海にはゴミが不法投棄されている。木は枯れ、空気がよどんでいる。ゴミの大量投棄によるものだ。

5 人と人のつながり

富士山の清掃を地元の県民に呼びかけた。しかし賛同されず逆に抗議された。そこで、まずは4年間活動しようと思った。それが、1年目100人だった協力者が4年目には7000人になった。活動を始めて15・16年目のころ、登山客が袋を取り出してゴミを捨てているのを見て、ゴミを捨てられない雰囲気が出てゴミ問題への意識が高まったと感じた。

環境問題に取り組むには、「環」を「わ」とも読むように、人と人をつなぐ「わ」をつくることが大切だと思っている。

6 自分の目で見ること

富士山のゴミの現状を知ってもらおうと小池百合子環境大臣(当時)と一緒に山に登ってもらった。小池大臣は、その現状を目の当たりにして「これはひどい」と憤り、それ以来、環境省も地元の県もチームと一緒に活動するようになった。何でも実際の様子を自分の目で見ることが大切だと思っている。